

YASUO IZUMI

# 和泉 康夫

株式会社 新日本テック 代表取締役社長

2017年度大阪  
テクノマスター  
OSAKA TECHNO MASTER

## 人が元気に成長できる場を創りたい。

### 挑み続ける

(株)新日本テックは、超精密金型部品加工を本業としながら、新技術の開発にも積極的に取り組んでいる。明るく奥行のある同社本社工場では、何十台もの大きな工作機械が左右にずらりと並び、温度管理にも細心の注意が払われている。つねに新技術の開発に挑み続ける和泉氏のものづくりへの思いは熱い。



### 社会に役立つものづくり

「仕事には、リクエストとニーズの2つがある」と和泉氏。リクエストとは、予算や納期、仕様などが明確に決まっている案件。ニーズとは、多くの方が困っている案件でいわば「ものづくりの課題」をさす。

(株)新日本テックは、多様に高度化するリクエストにきめ細かく応えとともに、ニーズにも独自の機能性金型部品で対応する。「リクエストとニーズの両方にお応えし、ものづくりで社会のお役に立つ製品やサービスを設計し、“カタチ”にすることが技術経営者の有るべき姿」と力強く語る。

### 世の中の多くの知見や仲間と繋がらなければよいものはいできない

「機械化やデジタル化が進む現代、ものづくりだけで差別化を進めることは難しい。現場、現物、現実の三現に、原理、原則も加えた五ゲン主義が大切」と和泉氏は言う。「企業の経営者として日々三現に向き合いながらも、社会人ドクターの学生となり、原理、原則を学び工学博士号を取得、研究成果を事業化することが自身の仕事。そのためには、良い師や仲間とのご縁を得て、多くの知見と繋がるのがとても大切だ」と語る。

### 寿司屋型ものづくり

(株)新日本テックの行動指針は、つねに変化する世の中に見合う旬のネタを鮮度よく明るく元気に提供する「寿司屋型ものづくり」。ものづくりのリクエストとニーズに次々と挑み、よりよい答えを模索し続ける同社の姿勢が新しい技術を生みだしている。「微細精密加工で未来を切り拓く」と和泉氏はいふ。目前の課題を解決し続けることで、可能性が広がり、未来も拓ける。和泉氏の見つめる先は社大だ。



### 宝物は

歴史好きで、中でも「真田幸村が好きだ」という和泉氏。自身も男気あふれる戦国武将のような風格ももつ。かと思えば、取材の合間に工場内で、趣味のギターで演歌の弾き語りも披露する。堂々とした態度とは裏腹に歌声は控えめ。周りの社員さんをそっと気遣う。

そんな和泉氏の宝物は、創刊以来25年を誇る社内新聞だ。社内新聞には、同社の挑戦と社員皆さんの頑張りの歴史とともに、社員さんの暮らしや趣味の記事も多く載っているという。

「第4回ものづくり日本大賞(平成23年度)」「平成25年天皇后両陛下の行幸啓」「平成29年地域未来牽引企業」…。新日本テックの受賞歴をあげれば、きりが無い。それは、同社の確かな技術力の証だ。“今”に“あぐら”をかくことなく、問題を解決し続ける同社から、今後も目が離せない。

## 市場ニーズに応えるなかに、喜びを見いだしたい。



<プレス等の微細精密加工の金型設計に卓越した技能>

昭和28年にスライドファスナーの製造で創業して以来、一貫して技術開発力と微細精密加工技術の向上に努め、電子部品の製造に使われる超精密金型やその特注金型部品、独自の機能性金型部品を製造する株式会社新日本テックの社長を務める和泉康夫氏。和泉氏は大学卒業後、大手電機メーカーに就職し、その後28歳のときに同社に入社。以来26年にわたり金型づくりに携わるとともに、若手技術者の育成にも努める。また、機械・プラント製図技能士1級の資格を有し、平成29年には工学博士号を取得するなど、あくことなく知識と技能の習得を続けている。

■所属企業概要  
株式会社新日本テック 事業内容:超精密金型部品、特注金型部品、超精密金型(プレス・プラスチック)の製造  
〒538-0035 大阪市鶴見区浜2丁目2-81 TEL:06-6911-1183/FAX:06-6911-1182  
http://www.snatec.com

